

うち：お兄ちゃんのこと、ばり好いとーよ！

く同棲した、いとこと一日デートで満喫しちゃった件く

（■）おはよう、お兄ちゃん

【遥】

お兄ちゃん、まだ寝てるのかな

【遥】

お兄ちゃん、朝だよ。休日だからって、いつまでも寝てたら：って、起きてたの？
珍しいね、いつもはうちが起こすまで、幸せそくに寝てるのに

：ああ、包丁の音が目覚まし代わりになったんだね

なら丁度良かったかな。そろそろ朝ご飯できるから、早く着替えてこっちに来てね

：え、あと五分はだーめ。そう言ってぐっすり二度寝しちゃうんだから

：まあ、お兄ちゃんの可愛い寝顔眺めてるの、楽しいけど：

と、とにかく！今日は二度寝するの禁止っ

お兄ちゃん、まさかとは思うけど、忘れてないよね

スマホのカレンダーと頭の中に、しっかり印、つけてるでしょ？

ほら、うちはちゃんとつけてるよ。：：：ハートの、印：

うう：：：なんか、恥ずかしいんだけど

うただけ張り切ってるみたいで、お兄ちゃんは、そんなに：

え、お兄ちゃんも、ちゃんと憶えてたの？

：あ、ほんとだ。スマホのカレンダーに、印つけてる

うちとおんなじ：：ハートマーク：：：ふふ

もう、寝惚けてただけ？びっくりしちゃったよ

はあ：：良かった。やっぱりうちとお兄ちゃんは、両想い、だね

：：：ん、ちゅっ

言うの遅れちゃったけど、おはよう、お兄ちゃん

今日はお兄ちゃんの大好きな、甘い卵焼き、作ってるからね

早く着替えて、一緒に食べよ

ふふ。じゃあ、待ってるからね

【遥】

あ、お兄ちゃん

もう朝ご飯できてるから、前に座って

【遥】

くすっ、お兄ちゃん髪、寝癖ついてるよ。ふふふっ

アンテナみたいに、束になった髪の毛が、びよんって跳ねてる
気づかなかったの？

もー、身だしなみは整えないとダメだよ

家の中なら良いけど、今日は外に出るんだから、ごはん食べたあとに寝癖直してあげる
：まずは手を合わせて、いただきます、しようね

お兄ちゃんには、あったかいごはんを食べてほしいから：

はい、いただきます

今日は焼き鮭とお味噌汁、炊き立てのごはんに、甘い卵焼きだよ

：どう？ 美味しく、作れてる？

ほんと？ 良かったあ

うちの作る料理に、そろそろ飽きてきた頃かなあって思ってたんだ

お兄ちゃんのことだから、コンビニ弁当食べたい、とか、こつてりしたカップラーメンが
良いっ、なんて言い出すんじゃないかなあって

でも、そんなことなかったね

お兄ちゃん、毎日うちの作った料理、美味しく食べてくれて：その、ありがとね

お礼に、これもまたいつものことだけど、あーん、してあげる

うちの特製、あま〜い卵焼きを、はい、あーん

：ほら、ちゃんと口開けて。あーん、っと

：ん？ うちにもくれるの？ ふふ、ありがと

あーん……んう、ん……美味かあ

お兄ちゃんは、どう？ 卵焼き、もっと甘く感じる？

ふふ。甘くて、ドキドキしてるんだ

だってお兄ちゃん、顔赤いよ

そんなにニヤニヤしちゃって……ふふ、全然飽きないんだね

うちとお兄ちゃんが、一緒に住み始めて、もう二週間も経つのに

はあ…うち、毎日が幸せだな

あの頃は、たまにしかお兄ちゃんに会えなくて…寂しいなって思ってたけど
今は、同棲してるもんね

朝起きたら、毎日お兄ちゃんの顔を見れるし。幸せそうににやけてるほつたを、指先で
つつんつてできるし

おはようって挨拶して、こうして、一緒に朝ご飯を食べることもできるんだよ
当たり前のことかもしれないけど、うちにとっては、毎日が特別なんだ

特に、今日はね。ふふ

朝ご飯食べたら、お兄ちゃんとデートだから

前に新宿は見て回ったから、今回は原宿！そしてえ…東京といったらあそこ、だよね
あの、ばり目立ってるタワー！あ、ツリーかな

とにかく、今日はうちと色んなところ回って、一緒に楽しもうね

…もちろん、恋人繋ぎで、ね

（ ■ ■ ） うちと「一緒にスカイツリー観光ばい！」

【 遙 】

はあ…人混みすごいねえ

どこを見ても、人人人…これぞ東京って感じだね

でも、一番すごいのは、目の前のこれ！

スカイツリー！ わあ…ばり大きい…

身体を反らしても…んっ…上の方まで見えないよ！

一体何百メートルあるんだろ…お兄ちゃん何人分？ ふふ

今からこんなに大きい建物を昇るなんて、全然想像できないなあ…楽しい

お兄ちゃん、さっそく中にいこ！ さ、こっちこっち

…こっちで、合ってるよね？

あれ、お兄ちゃん、中のエレベーターに乗らないの？

チケット？ スカイツリーって、チケット買わないと昇れないんだ

じゃあ、当日券はこの四階で…え？

お兄ちゃん、まさかこの行列…皆、チケットを買うために並んでるの？

ほんとだあ、四十分待ちって書いてる

うう、東京は色んなところで並びすぎだよ。バス停にも行列できてるし…

ん、何これ。引き換え券？

なんだあ、お兄ちゃんネットで買ってたんだね。びっくりしたよー

じゃあ、あの長い列に並ばなくてもいいんだ。良かったあ

※ナレーション…この後、うちとお兄ちゃんはエレベーターの前にやって来ました。

そこでも人が並んでいて、少し待つことになりましたが、お兄ちゃんと一緒にだから、ちつとも退屈じゃありませんでした。

やっぱりお兄ちゃんと過ごす時間は、最高やねー

あ、お兄ちゃん。エレベーター来たよ

わ…中綺麗だねえ。薄暗いけど、そのおかげで壁の飾りがきらきらしてる…

あれって、花火を表現してるんだよね。お洒落な飾り…

へえ、あれ、江戸切子っていうんだ。お兄ちゃん、詳しいね？
もしかして、色々調べてた？ ふふ、やっぱり

今日のお兄ちゃん、うちのことリードしてくれるから、とっても頼りになるよ。ありがと
—あ、エレベーター動いてる！ 扉の上にある画面、40メートル、50メートル、60、70—
って、どんどん数字が上がってるけど、そんなに速く昇ってるの？

…すごい。すごいすごい！

昇ってる音、全然しないのに

うちとお兄ちゃん、あんなに高い建物を、昇ってるんだよね
なんか、実感湧かないなあ

もうあつという間に340……350メートル…

扉、開いたね

ほんとに、こんなに高いところまで——うっ！

お兄ちゃん、耳弱いのに、平気なの？ うち…耳の奥がキーンってするんだけど…

……耳抜き？ 唾を、ごくんって飲めば治るの？

……ん、んく……っ、はあ……ほんとだ。耳のヘンな感じ、なくなったけど……どうして、
急にそうなったのかな。お兄ちゃん、分かる？

ふむふむ…空気圧の変化で鼓膜が……ま、まあ、難しいことは置いといて

ここが天望デッキかあ…まだ一分も経ってないのに、こんな高い所に…

確か、350メートルだったよね。でも、いまいち信じられないというか…

あ、お兄ちゃんお兄ちゃん！ あれすごいよ！

なんかもう、今日すごいばかり言ってる気がするけど、

ほらあれ、大きなガラス張りの窓！ ぐるーって、どこからでも景色が見えるよ！

行こう、お兄ちゃん

ほんとだあ

あんなに大きなビルも、作り物みたいに小さくて……でも、これが東京の景色なんだね
ビルがいっぱい…ふふ。けど、全部ミニチュアっぽくて、不思議な感じするな

遥たち、下から見上げたスカイツリーの、あの出っ張ったところにいるんだよね

これが、350メートル……。こんな景色見たの、初めて……。夜になったら、あちこちに灯
りがともって、もったに綺麗に見えるんだろうなあ…

あつ。あの大きな川は、隅田川かな

毎年、花火大会とかあるんだよね

さっきのエレベーターで見た、江戸切子の花も綺麗だったけど…

いつか本物の花火も、お兄ちゃんと一緒に、見たいな

今年はもう終わっちゃったから…また夏がきたら、二人で見ようね
毎年一緒に、すぐ隣で……

うちの囁き声も、ちゃんと届く距離で…

約束やけんねっ、お兄ちゃん

※ナレーション ..お兄ちゃんと二人で、スカイツリーの展望台から、東京の景色を
楽しむことができました。

それと、素敵な約束もしちゃって、大満足です。

…ただ、スカイツリーの楽しみ方はまだまだあるらしくて……」

あれ？ こっちのタッチパネルっぽいのは、なんなん？

東京の景色が映ってるけど…わっ、触ったら大きくなった

これ、面白いね。タッチしたところが虫眼鏡みたいになって、景色をじっくり見れるんだ
ね

へえ…建物に合わせて、文字も浮かんできてるんだ…なんか、未来って感じるねえ

……あ、この三日月のマークは……わあ、夜景に切り替わったよ

素敵い……夜の景色も見てみたいって思ってたけど、あっという間に叶っちゃった

東京ってすごいなあ…何でもあるし、楽しいことも、数え切れないくらい、いっぱいある
よね……

…でも、やっぱり一人だったら、こんなに楽しめてないかな

うちの隣には、お兄ちゃんがいないくちやね

え、もっと面白いものがあるの？ どれどれ？

んー、こっち？ ふふ、うちの手を引っ張っちゃって…今日のお兄ちゃん、男らしいね

え、もう着いたの？ 何か面白いもの…ある？ ……ん、足元？

— つて、

【遥】

きやああああっ！？ お、お兄ちゃん下あつ、落ちるう！

……ふえ、ガラス？

ほ、ほんとだ。足元、ちゃんとある…でもこれ、わ、割れたり、しないよね？安全だよ？

うう…怖いよお

お兄ちゃんの胸に飛び込んだけど、もう少しこのままで、良い？足、震えちゃって…え、このガラスの床で、記念撮影？

しないよっ、そういうインスタ映えとかいいから、別のところで写真撮ろ？お願い？ お兄ちゃん…

【遙】

はあ…すごく怖かったよお

もう、お兄ちゃんったら意地悪するんだからあ

…まあ、うちのこと、受け止めてくれたし。

あの時のお兄ちゃん、かっこ良かったけど…

ほんと、ドキドキしたんだからね

ほら、うちの鼓動、確かめてみて

そ、そういう意味じゃなくて。け、健全だから…胸のところに、左耳を…こうやって

…ね？ うちの心臓、ドキドキ…してるでしょ

うん、怖かったのは、ほんとにだけど

お兄ちゃんと一緒だから、嫌じゃ、なかったよ

こういうところで、いちゃいちゃできたし…ふふ

それにね、こうして、お兄ちゃんとくっ付いていると…落ち着くん

お兄ちゃんの温もりと、お兄ちゃんの…匂い

ほっとして…胸のドキドキが、静かになってくる

…お兄ちゃん

これから、うちのこと、守ってね

さっきみたいに、ぎゅうって、抱きしめて…ほしいな

んっ…

ありがとう、お兄ちゃん

……ばり好いとーよ。ふふっ

※ナレーション お兄ちゃんと密着して、別の意味でもドキドキしちゃいました。
今のままでもばり高いスカイツリーやけど、もっと上に行けるらしくて。
そのためのチケットを買って、二人で天望回廊っていう長い通路を歩くことに。
もちろん、恋人繋ぎの手はそのままです。
……そして、最後は二人で……」

【遥】

ふんふんふん、
お兄ちゃんと、空中散歩してるみたいだね
…あ、空中デートの方が正しいかな、ふふ
この長い通路からも、東京の景色が見れて……
うう、こういう時の気持ちって、何て言えばいいのかな
最高…じゃないし。綺麗、っていうのもちよつと違うし…
やっぱり、すごいくらいしか言葉が出てこないけど…お兄ちゃんになら、伝わってるよね
二人で、空中デートしてる時の、うちの気持ち

あ、着いたみたいだね

この大きな柱に書いてある数字…451.2m、だって。さいごーとーたつてん、なんだ
未だに、少し信じられないんだけど…夢じゃ、ないよね
だって、うちの右手…あったかいから。ふふ
ねえお兄ちゃん、ここで写真撮ろっか。せっかく空中デートしたんだし、その記念に
うん、もっと寄り添って…そうそう、笑顔で
…じゃあ、撮るよ

スマホのカメラをタイマーにして…はい、チーズ

—ん、ちゅっ

ふふ、どうしたのお兄ちゃん？ 顔、真っ赤だよ
はいこれ、良く撮れてるでしょ
うちとお兄ちゃんの、ドキドキしちゃう、思い出ばい、

これでもう、忘れられなくなったね、ふふ

(■ うちに似合うかなあ…)

【 遙 】

ここが表参道…で合ってるよね？

原宿も人が多くてちよっと疲れちゃったけど、この場所は…少し落ち着くな
道幅は広くて歩き易いし、綺麗な街路樹もあって…癒されるのかも

正直、竹下通りは観光とか遊びって雰囲気で楽しさの方が大きかったけど…

今は、お兄ちゃんとデートしてるって感じ、するね

えへへ、お兄ちゃん

ん…。うち、こんなお洒落な通りを、お兄ちゃんと一緒に歩くことができ、嬉しいばい
慣れない東京の街でも、お兄ちゃん、しっかり案内してくれるし

うちの我が儘にも、色々と付き合ってくれて…え？ あそこの、洋服屋さん？

そんな、悪いよ。うち、こうして歩いてるだけで幸せなのに…良いの？

ありがとう、お兄ちゃん

じゃあ、行こっか。

うちにお洒落な服が似合うか分からないし、浮いちゃうかもしれないけど…

そんなこと、ない？ もう、お兄ちゃんったら、口上手いね

……ほんとの気持ち…だから？ うう、恥ずかしいよ…

なんか今日は、お兄ちゃんにリードされっぱなしの気がする…

うちも、負けないからね。お兄ちゃんのこと、もっとドキドキさせるんだから

楽しみに、しててね

わあ、とっても明るいお店だね

どれもお洒落な服ばかりで…うちに似合うかなあ

うーん…

あと、洋服の他に、下着も見ておきたいんだよね

実は、今着けてるブラ、少しくっくなってきたよ…。

まだ、育ってるのかな？

誰かさんのせいで。くすっ

…ねえ、お兄ちゃんは、どのブラが好き？

少し大人っぽい、派手なものか…それとも、刺繍の入った可愛いブラ…

うち、お兄ちゃんの好きな下着を付けたんだけど、どっちが好み？

んー？ お兄ちゃん、照れてるの？

ふふ、こっちの、可愛い方だね

うちも、このブラの方が、好きかな。

あんまりセクシーすぎるのは、うちに合わないと思うし

でも、お兄ちゃんが見てみたいなら、いつか挑戦してみようかな…なんて下着の次は…

…あ、このスカート可愛い…

お兄ちゃんも、そう思う？

うーん、でもちょっと…え、試着できるの？

なら…うん、一回、穿いてみようかな

えっと、こっち、だよね

すぐ着替えるから、側で待っててね

【遙】

…一応、言っておくけど。の、覗くのは好かんよ

ほんとにいい？ お兄ちゃんエッチだから、覗きたいって思ってるんじゃないの？

あ、そこは否定しないんだ。お兄ちゃんのエッチ。ふふ

じゃあ、ちょっと待っててね

ん……しょ

ちよっと、恥ずかしい…かな

だって、薄いカーテンの向こうで、服…脱いでるし…

お兄ちゃん…ちゃんと、いるよね？

良かったあ

やっぱり、お兄ちゃんが側にいると、安心…するな

ん……はあ

このスカート…可愛いんだけど……うう

あ—うん、もう、着替え終わったよ。でも…そのう…

いや、似合っていないとか、サイズが合わないとかじゃなくて…

別の事情があるっていうか…

あ、やつ、お兄ちゃ——ちよつと待つ——
くくくくっ！

うう……ど、どう……かな
このスカート……うちに、似合ってる？

ん……あり、かと

そう言ってもらえて、嬉しいよ……嬉しんだけど
このスカート……短くない？

実は、手に取った時から気になって……

ほら、太ももとか、大胆すぎるくらい、見えちゃってるし……

こういうの穿いて、街を歩くのは……

あ、人が——ちよつとお兄ちゃん、こつち！ 中に入って！
ばれちゃうから、靴も一緒に——

【遥】

ふう……間に合った

って、うち……何やってるんだろ

こんな短いスカート穿いてるの、他の人に見られたくなくて……

でも、お兄ちゃんまで、中に隠す必要、なかったよね

ごめんね、つい焦っちゃって……

うう……話し声、聞こえるね

足音も、すぐ側からするし……恋人、なのかな

仲、良さそうだね……

でも、うちの方が、距離も近いし……こんなに、くっ付いてるんだよ
ほら……。きっと、このお店の中で、一番距離が近いの……お兄ちゃんと、うち……だよ

【遥】

あ……だーめ

もつと小さな声で話さないと、近くにいる人に、聞こえちゃうよ
いくら恋人だからって、試着室に二人つきりなんて……

もし誰かに気付かれたら、大変でしょ

きつと……恋人らしいことしてたって、思われちゃう……

ど、どんなことって……。分らないの？

ん……ちゅっ

……こういうこと、かな

ん……お兄ちゃん

うち、今すっごく……ドキドキしてる……

お兄ちゃんも？ほんと、かな……

うちの方が、ドキドキしてると思うから……もつと、頬っぺたに、ちゅー……しちゃうね

ん……お兄ちゃん、好いとーよ……んう、ちゅっ……ちゅう……ちゅっ

はあ……ほんとに、恋人らしいこと……してる

んう、ちゅっ、ちゅっ……ん、はあ……

ほんとは、こんなところで……ダメ、なのに……ちゅう

はあ……ほった、柔らかい……ちゅっ、ちゅう……はあ

ん……お兄ちゃんの心臓、うちより……ドキドキ、してるね。くすっ

嬉しいな……うちのこと、意識……してるんだ

……うちも、そうだよ。こんな狭いところで、二人っきりだもん

お兄ちゃんの温もりと、匂いで……満たされて

もう、周りの音なんて、聞こえない

うちの中には、お兄ちゃんしか、おらんよ……

ん、ちゅっ、ちゅう……お兄ちゃん、こっち、向いて

【遥】

ふふ……目、合ったね

……お兄ちゃん、ばり好いとーよ……

ん、ちゅっ……ちゅ、ちゅう……んう……ちゅばあ

はあ……唇で、キス、しちゃった。ふふ

【遥】

ねえ、お兄ちゃん……

うち、このスカートね……やっぱ、外では穿きたくないな

けっこう大胆だし、強い風とか吹いてきたら……

その、下着、見えちゃうかもしれないから

だから……このスカートはあ……

【遥】

お兄ちゃんの前だけで、穿くことにするね。ふふっ

あ……近くにいた人、もういなくなったみたい……だね
少し、名残惜しい気もするけど……今なら、外に出られると思うよ
……ん？ もっと、くっ付いていたい？

……うちだって、同じだよ

でも、大丈夫。この後も、うちとお兄ちゃんは一緒だから
このスカートを買って、外に出たら……お昼にしようか
都会っぽい、お洒落なカフェ……期待しても、良い？

ふふ、楽しみにしてるね

……じゃあ、ちょっとだけ、待ってて
すぐ着替えるから

【遥】

……またね、お兄ちゃん

今日のデートは、まだまだ続くばい

（ ■ まったりカフェで小休止 ）

【 遙 】

ん……はあ、冷たくて美味しい！

こっちのパンケーキも、生クリームたっぷり、生地はふわふわもちもち、

あーほっぺが溶けちゃうよお……

パンケーキは美味しいし、飲み物も……あ、お兄ちゃんのそれ、ラテアート……だよ？

カフェラテの表面に花の絵が浮いてる……花びらがハートの形になってるんだ……

可愛いー！

東京には、こんなにお洒落なカフェがあるんだね

雰囲気も落ち着いてて、うち……こういうところ、好きだな

……あれ？ けどこういうところって、普通……一人で来ないよね？

思い返してみると、スカイツリーの時も慣れてる感じしたし……

もしかしてお兄ちゃん……事前にうち以外のお、女の子の友達と……

そ、そうだよ、ネットで調べたんだよねっ

ごめん……うち、勘違いして、焼き餅……焼いちゃった

それだけお兄ちゃんのこと、好いとーけん……うう

お詫びに、これ……うちのパンケーキ、食べさせてあげる

えー、遠慮しなくて良いって

ただ、他のお客さんもいるから。少しだけ……こっそり、あーんするね

はい、お兄ちゃん……あーん

どう？ 甘くて、美味しいでしょ？

ふふ、じゃあもう一口……はい、あーん

これでお終い

……え、冷たいものが飲みたいの？

仕方ないなあ……じゃあ、うちのアイスカフェラテと、取り替えっこしない？

うちも、お兄ちゃんの……飲んでみたいから

はい、交換ね

一口……ただだからね？

ん？ 飲み方って……そのままだよ？ ストローを咥えて、ちゅーちゅー吸えば良いのさ、どーぞ。うちとの間接キス……だけどね

あれ、味…分らなかった？

お兄ちゃん、顔赤くなってるよ……さっきの洋服屋さんで、間接じゃないキス、したのに

ふふ。じゃあ、今度はうちも…ん、あったまる…

これで、うちもお兄ちゃんと、間接キス…できたよ

…お相子、だね。あはは…これ、意外と恥ずかしいかも

はあ…少し暑くなってきちゃった

……ねえ、お兄ちゃん。この後、何か予定あるの？

特になければ、あとはうちに任せてくれない？

ほら、今日はたくさん歩いたし、汗も…かいたよね

ここよりも、もつとのんびり休めるところがあるから、そこでリフレッシュしていかない？

あー、どんなところかは、着いてからのお楽しみっていうことで…

全部食べたし、そろそろ出よっか

ん、しょ…

さ、お兄ちゃん。うちの手、握って

【遙】

ん…

今度はうちが、お兄ちゃんをリードしてあげる

ふふ、ドキドキする？ わくわくしちゃう？

……良いよ。期待、しててね

(■ お誕生日おめでとう)

【 遙 】

どう？ お兄ちゃん。綺麗なホテルでしょ

カップルが一休みするには、打ってつけの場所ってわけ

… けっこう、前から予約してたんだ。お兄ちゃんを驚かせたくて…

あとは、お祝い… したかったからね

… ふふ。お兄ちゃん、今日は何の日か憶えてる？

うん、デートの日でもあるけど、もっと大事なイベントがあるの、忘れてない？

もう、うちのことばかり考えてくれるのは嬉しいけど…

ちゃんと自分のことも大切にしてね

あ、来たみたい。ちょっと待ってて、取ってくるから

お待たせ。これ、何か分かる？ ただのケーキじゃないよ

そう、せーかい！ お兄ちゃんの、バースデーケーキでしたー

ふふ、今日はうちのデートと、うちの大好きな人が生まれた日…

お兄ちゃん、お誕生日、おめでとう！

うちね、ずっとずっと、この日をお祝いしたかったんだ

… 生まれてきてくれて、ありがとう、お兄ちゃん

… あれ？ お兄ちゃん、泣いてる？

えー、ほんとに？ 目に涙浮かんでない？

… 言っておくけど、感動するのはまだ早いよ

この後、うちの誕生日プレゼントがあるんだから

まずは、このローソクの火を消してもらわないと

… あ、せっかくだから、お兄ちゃんのために、定番の曲、歌うね

すうー、はぁ…

ん、こほん

……Happy birthday to you♪

Happy birthday to you♪

Happy birthday, dear……♪

【遙】

…おにーちゃん、くすっ

Happy birthday to you——……♪

改めて、お誕生日おめでとう、お兄ちゃん
さ、ローソクの火を消して…

はい、ふうふう。もうちよつとだよ、ふうふう——
え、うちにも消してほしいの？　じゃあ、一緒に——

ふうふう——

はい、これで全部消せたね

……ん？　お兄ちゃんにも、ふーって、してほしいの？
ふふ、良いよ……

ふうふう——

どう、気持ち良かった？

お兄ちゃん、耳弱いもんね

……でも、これだけで満足、しないでよ

今日はお兄ちゃんの誕生日なんだから、

うちにできることなら、何でも好きなこととしてあげる
これが、うちからの誕生日プレゼントだよ

…ほんとは、形に残るものもあげたかったんだけど…
この部屋の予約と、サプライズケーキで……あはは

ということで、プレゼントは、うち……なんだけど

がっかり…した？

そんなこと、ない？　ありがとう、お兄ちゃん

うち、お兄ちゃんにしてほしいこと、何でもするから。遠慮なく、言ってね

(■ 足で…マッサージするよ!)

【 遙 】

はい、お兄ちゃん

甘いケーキを、あーん

どうかな、美味しい?

スポンジとクリームの上に、たっぷり苺が詰まってるんだよ

はい、あーん…

あ、頬っぺたにクリームついてる…今、取るからね

ん、しょ…ん、ちゅう

うん、ちょうど良い甘さで、美味しいね

ふふ。ねえお兄ちゃん、お願いって、ケーキをあーんするだけで、良いの?

別に一つだけってわけじゃないんだから、もっとうちを頼ってほしいな

…ん? マッサージ? もちろん良いよ

正直、あーんは毎日やってることだし、少し特別なことをしてあげたかったんだよね
マッサージだったら、お兄ちゃんの疲れた身体を癒せるから、

プレゼントの内容にぴったりだし

じゃあ、さっそくベッドの方に…え? 手でするんじゃないの? 他の…ところ?

でも、それ以外でマッサージなんて…あ、足!?

え、えーと…。それって、お兄ちゃんの身体を、踏んづけちゃうってことだよな?

ほ、ほんとにそんなことして、良いの? 踏んじゃうんだよ? 足の裏…なんかで

うーん。お兄ちゃんがそう言うなら、足踏みマッサージ、やってみよう…かな

何でもお願い聞くんって言っちゃったし…

…それに、実は、やり方とか少し知ってるんだ

ほら、忙しそうにしてるお兄ちゃんを癒したくて、

マッサージの方法とか、色々調べてたから…

でも、足で踏むっていうのは、やっぱり見た目的にどうかなって思ってた

手でした方が、気持ち伝わるような気、するでしょ

だから、足でするマッサージはなしかなくて思ってたんだけど…

お兄ちゃんは、興味あるみたいだね

うーん…ベッドでするのは、体重掛けにくいし…
バランスも取りづらいから、するなら床かな

身体が痛くないように、毛布敷くね
ん、しょ…

はい、まずは身体を右側に倒して、下になる右脚を、マッサージし易いように
しっかり伸ばしてね

…反対の脚は、楽になるよう曲げる感じで…

【遥】

うん、おっけー

じゃあ、足踏みマッサージ……していくね
太ももの内側から…んっ

んっ、んう…しょ、ふみふみ、ふみ、ふみ…

うわあ…ほんとにお兄ちゃんのこと、踏んづけちゃった…

…うう、このマッサージ、やっぱり後ろめたいっていうか、罪悪感…あるんだけど
だって…大好きな人のことを、足なんかで…

え、もつと強く？ ん っばい感じで…お兄ちゃん、これはあくまでマッサージなんだよ
そういう、ヘンなプレイとかじゃないんだから

というか、これ…マッサージしてるうちが言うのもおかしいけど、気持ち…良いの？

そっか…圧が強くて、気持ち良いんだね
ん、しょ…確かに、手でする時よりも、足の方が体重掛けられるし、
凝ってるところとか、ほぐれ易いのかな

……ん、んっ

ぐいぐい、ぐり、ぐり…

へえ…足のマッサージって、けっこう楽ちんだね

ん、んっ…最初は、踏んづけることに抵抗もあったけど

お兄ちゃん、気持ち良いみたいだし……こういうのも、悪くないかな

ん、しょ……ふみふみ、ぐりぐり……っっ

太ももから、膝の方まで踏んづけて……ん……足首まで

ぐいぐい……

あ、体重掛けすぎちゃった？

大丈夫、みたいだね

…そっか、足の裏って平らだから、指の先で圧を掛けるより、痛くないんだなら、もっとうちの足裏で、ぐりぐりできるね

こうやって、お兄ちゃんの右脚を万遍なく…踏みつけちゃうの

…あ、お兄ちゃん、今へんな声上げなかった？

恋人に踏まれて、悦んでるんだね…ふふ

今度は…どうしよっかな

確か、踏みつけるだけじゃなくて、擦りつけるやり方もあるんだよね
こうして……

すりすり、すりすり… ってね

さっきまでは上下に踏んでたけど…足の裏を擦るようにして、圧を掛けていくやり方もあるんだよ

足踏みマッサージは、この二つが基本…だったかな

こうやって、圧の掛け方を工夫して、筋肉をほぐしたり…
血の流れを良くしたりするんだって

ん…今度はまた踏みつけて、足の凝つてるところを刺激する…と

こんな感じで、踏みつけたり、擦ったりしながら、太ももから爪先まで、何度か往復して
いくね

ん、しょ…ん、ん…

はい、これで右脚はお終い

…お兄ちゃん、うちに踏まれて、骨抜きになっちゃった？

まだ、左脚のマッサージが残ってるから、さ、今度は反対側に身体を倒して

【 遙 】

…じゃあ、こっちも踏んでいくね

ん…ぐいぐい、ぐりぐり…」

まずは太ももから、ゆっくり丁寧に、ほぐすね
うちの、足裏で…」

んっ、んしょ、ん…しょ

どう、お兄ちゃん。足の形、良く分かるでしょ？

小さくて、熱い感触…その身体で、よく味わってね

ん、んっ……足の先まで、何度も…何度も…」

ほら、うちに踏まれたところが、ぽかぽかしてこない？

マッサージの効果を意識すると、もっと気持ち良くなれると思うよ

…そう、硬くなった筋肉が、だんだん柔らかくなっていくイメージで…
ぐいぐい、ぐりぐり、ぐりり」

…ん、ふう…

次は、左脚を全体的に擦っていくよ

んっ……土踏まずを使って、前後に…んっ

ふふ…何かね、足の裏ですりすりしてると、お兄ちゃんを足で撫でてみたい…
よしよし、よしよし…ってね

…お兄ちゃん、さっきから動かないで、うちのマッサージを受けて…偉いね
もっともっと、良い子良い子してあげる

…足の裏で、だけど。ふふっ

よしよし、良い子良い子…」

はあ…こうしていると、あの時のこと、思い出すなあ

ほら、うちがお兄ちゃんの肩を揉んであげたこと、あったでしょ

うちとお兄ちゃんが、恋人未満の、ただの仲のいいとこだった頃…

あの時、お兄ちゃん…

喜んでくれたから。また、マッサージとかしてあげたいなあって思ってたけど

…まさか、足でしてほしいとは思わなかったなあ…ふふ

もちろん、これは健全なマッサージだし、足で踏んづけたりするやり方は、

フーレセラピーって言って、効果も指で圧迫するよりも高いんだよ

でも、お兄ちゃん…うちに、**ス**っぱい感じだって、注文したよね

それって、ちよっと…違う意味があるんじゃない？

えー、ほんとに？

最初、うちが足でするの躊躇ってたから、やり易いようにしてくれた…とか？

へえ、そうなんだ

お兄ちゃん、今度はうつ伏せになってくれる？

【遙】

うん、ありがと

これで……

腰の辺りも踏んづけられるねえ

ぐいぐいって…ふふ

お兄ちゃん、ほんとうちに、こういうことされたかったんだよね？

…誤魔化さなくても良いよ。年下の恋人に、足で踏まれたかったんだよね？

ふふ、お兄ちゃん…すけべって言うよりは、変態、かな

でも、うちはそんなお兄ちゃんのこと、ばり好いとーよ

ほら、背中からお尻の方も、ん、しょ…気持ち良くなってるね

うちの足裏で、隈なくマッサージしちゃう…ん、ぐりぐりい…ん、ふう…

うちの感触、全身で感じてね…

これで、全部お終いね

ふう…足踏みマッサージなんて初めてだから、うちもつい楽しくなっちゃった…

ごめんね、お兄ちゃん

けっこう盛り上がっちゃったりしたけど…気持ち、良かった？

ありがと…。たまにはこういう、刺激的…？ なのも良いよね

なんか…うちもお兄ちゃんも、新しい一面を知れたけん。ふふっ

(■「耳かきと炭酸綿棒ばい」)

【 遙 】

うちの膝枕…落ち着く？

そっか、良かったあ

…うちの太ももの上で、お兄ちゃんの頭を…

なでなで、なでなで…

お兄ちゃんの髪の毛、さらさらしてて…気持ち良い

…よしよし、よしよし…

さっきは、足でなでなでしちゃったけど…

やっぱり、手で撫でた方が、優しい感じ、するよね

うちの気持ちも、お兄ちゃんの心に、伝わると思う…

ん？ 次は、耳かき、してほしいの？

…良いよ。そう言うと思って、道具…用意してきたんだ

お兄ちゃん、うちの耳かき、大好きだもんね

休みの日は、いつも耳掃除して…って頼んでくるし

…でも、あんまりやり過ぎるのも耳に良くないから、最近はお無沙汰だったよね
きつと、耳垢が良い感じに溜まってるんじゃないかなあ…ん、どれどれ…

右耳の中は…

あ、見えるよお…

奥の方で、カサカサって、してる

うちに取ってほしくて、こんなに集まってくれたのかな…なんて

……カリカリ、カリカリ

……カリカリ、カリカリ

はあ……久々の、耳かきだね

前した時よりも、気持ち良くお掃除できてる？

癒されるんだね…

うちも、お兄ちゃんの温もりを感じられて、ほっとするな

不思議…だよ

お兄ちゃんの耳をお掃除していると、うちまで、癒されるんだ
ふふ……カリカリ、カリカリ

……カリカリ……カリ、カリ……

次は、深いところを……ん、しょ……

ん……かきかき、かきかき

……かきかき、かき……かき

はあ……幸せ

実は……うち、お兄ちゃんの耳、いっぱい綺麗にしたかったんだ
でも……あんまりやり過ぎると、耳の中、傷つけちゃうでしょ？

だからね、お兄ちゃんだけじゃなくて……うちも、我慢してたんだよ

ほんとは、膝枕しながら……お兄ちゃんの、頭の重さを感じて。一緒に、くっついて
いっぱい……いーっぱい……隅々までお掃除してあげたかったんだ

うちも……お兄ちゃんの耳かきするの、大好きだから

今が、とっても、幸せ……

ん……かきかき、かきかき……

かきかき……かきかき……

ん……はあ……んう……ん……

はい、耳垢取れたよ

今度は反対の耳を……って、思うでしょ？

今回の耳かきは、一味違うんだよ

お兄ちゃんに、もっと癒されてほしいから、少し珍しいもの、持ってきたんだよね

……ん？ 先っぽがふわふわした……ああ、梵天は違うよ。別に珍しくもないでしょ？

うちが持ってきたのは、耳かき棒の他に、まずはこの綿棒

先が細くなって、耳垢を押し込みにくいんだよね

そして……これ、耳垢水 せこうすい……って言って……本当は耳垢が乾燥してる人や、

奥にくっついちゃって、取れにくい時に使うんだけど……

綿棒を耳垢水に浸して耳掃除すると……すごく気持ち良いんだよ

うちは、炭酸綿棒って呼んでるんだよね……耳の中に触れると、しゅわしゅわするから

ふふ、ほんとだって

そういうタイプの耳垢水で、最後の仕上げや、

耳の中をすっきりさせるためにも使うんだよ

ちよっと、準備するね

まずは手のひらに垂らして……人肌に、温めるんだ
いきなり綿棒につけちゃうと、ひんやりしてて、耳の中が冷たくなっちゃうからね

……ん、このくらいでいいかな

あとは手のひらの耳垢水に先っぽを浸して……はい、炭酸綿棒のできあがり
これを、お兄ちゃんの耳の穴に……ん

……しゅわしゅわ

ふふ、どう？ 本当に、耳の中がしゅわしゅわするでしょ

……うちも初めて試してみた時は、炭酸の弾けるような音が、すぐ側で聴こえて……ちよっと
驚いたんだけど

すぐに、慣れてくるよ

……ほおら

しゅわしゅわ……しゅわしゅわ……

しゅわしゅわあ、しゅわしゅわしゅわあ……くすっ

耳の中をくすぐられているようで、気持ち良いでしょ

このしゅわしゅわ感……っていうのかな？ だんだん癖になってくるよお……

お兄ちゃんの敏感な、感じ易い耳には、少し刺激があるかもだけど……

耳の奥で何度も、ぱちぱち弾けているうちに……くすぐったいような気持ち良さが、止まら

なくて……抑え、られなくて……

気づいたら、炭酸綿棒の……虜になってるよ……

ほらね、ぱちぱち……しゅわしゅわあ……

……右耳は、これでお終い

炭酸綿棒のおかげで、細かな耳垢まで取れたね

……次は、反対側をお掃除するから、うちの方に顔を向けて
そう、左耳が上にくるように……

【遥】

ん……この体勢、お兄ちゃんと……見つめ合えちゃうね

ふふ……うちに耳かきされて、頬が緩んだ……幸せそうな顔、たくさん見せてね

ん……んう……

浅いところから、丁寧に……ん、しょ……

カリカリ…カリカリ

……カリカリ、カリカリ……

お兄ちゃんの左耳も、うちが一人占め…ふふ

カリカリ…カリカリ

普段は見えない、耳の色なところに触れて…

優しく…そおと…探し物をするんよ…

ここかな…こっちな……って

見つけたら、奥に仕舞わないように…また、そおと…

優しく…手前へ…

カリカリ…カリカリ

……カリカリ、カリ…カリ…

まずは小さな耳垢から…だんだん、奥の方も…

ん、しょ……ん……

かきかき…かきかき…

自然と溜まった耳垢が、どんどん掻き出されて…耳の外へ…

一つ…また一つ…耳の穴を転がって…綺麗に、なっていくね

奥のくすぐったいところに、耳かきの匙が触れて…

ふふ……お兄ちゃんの頬、緩んできたよ

うちの大好きな、幸せそうな…お兄ちゃんの寝顔

はぁ…うちも、幸せ

こうして耳かきしていると、時間の流れが、ゆっくりで…

時計の秒針も、うとうとしているような…二人だけの、穏やかな時間

ん、はぁ……

かきかき…かきかき

……かきかき、かきかき…

ふう…あとは、仕上げの炭酸綿棒かな

まずは耳垢水を手のひらに…

ひんやりしすぎないように、あっためて…

んー、このくらいかな

…お兄ちゃん、左耳にも、炭酸綿棒入っていくよー…

しゅわしゅわ、しゅわわあゝ

左の耳も涼しくなろうね、ふふ

どう？ 耳の中、気持ち良い？

しゅわしゅわぱちぱち、泡が弾けるような感覚…奥の方まで、味わってねん、しょ…炭酸のしゅわしゅわを、深いところまで、満たすように…んっ…

左耳も、すっきりしてきたかな？

…しゅわしゅわ、ぱちぱち

しゅわしゅわ、しゅわわあゝ

細かい耳垢も、どんどん剥がれて、綺麗になっていくよ…

涼しい炭酸の音色で、耳の中はもちろん…心もすっきり癒されてね

…ん、はあ…

最後に、綿棒をくるっと回して…耳いっぱい、しゅわしゅわを…

はい、これで左耳のお掃除も、お終い

今回の仕上げは、ちょっと不思議な感じがしたと思うけど…気に入ってくれた？

ふふ、ありがと

お兄ちゃんがしてほしいなら、また…してあげるね

じゃあ、次のお願いは…

このまま、寝ていたいのか？

そっか、たくさん歩いて、疲れたもんね

うちも…お兄ちゃんの側から、離れたくないし…

このまま…寝ちゃおっか

頭…撫でるね

よしよし、よしよし…

…お兄ちゃん

うち、これからお兄ちゃんと、一緒…だからね

ずっと……ずっと……

お兄ちゃんの隣には、遙がいて……うちの隣には、お兄ちゃんがいてくれる……
もう、時々じゃ……ないんだよ

朝……目を覚ましたら、大好きな人が、側にいて

目を開ける前も、気持ち良さそうな寝息が、耳に届いてる……

そんな日が、毎日……ずっと、続くの

……いつか、それが当たり前になっても……うちの気持ちは、変わらないよ

……愛おしいって、思う

……お兄ちゃん。……愛しとーよ

……っ、お兄ちゃんも、同じ気持ちで……

ああ……大好きな人と、気持ち繋がるのって……

……愛し合うのって……あったかい……ね……

ん……すう……すう……すう……ん……ふふ……すう……

すう……すう……すう……

(■ 二人の家に……)

【遙】

ん……すう……すう……すう……
すう……ん、ん、あ……
もう、朝あ？ お昼、かな……？
あ……ふふ、お兄ちゃんも、今起きたの？

え、さつき……？ ということは、お兄ちゃん、うちの寝顔、見てたの！？
ううう、すごく恥ずかしいんだけど……
むう……可愛いって、余計に顔……熱くなっちゃうよ……
もう、明日はうちが先に起きるからね
そして、お兄ちゃんの可愛い寝顔を、じっくり見返しちゃうから。ふふ
じゃあ、そろそろ起きよっか
……と、その前に。……ん、ちゅっ
おはようのキス、まだしてなかったから、ね
一緒に起きよ、お兄ちゃん

【遙】

んっ、んんうう！ はあ……
昨日は、あの後……一緒に寝ちゃってたんだね
ああ……とっても楽しかったなあ……お兄ちゃんと、一日中デート……ふふ
お兄ちゃんも、最高の誕生日に……なった？

そっか、ありがとう
……ほんとはこのまま、もっとゆっくりしていたいけど……そろそろ、時間だし
帰る支度、しよっか
ええと……うちの鞆は……あ、これ？

スカイツリーで買った、ノートだよ
この中に、今日の思い出……書こうかなって思ってた
……あ、そうだ。お兄ちゃんも書いて、見せ合いつこしない？
ふふ、じゃあ、家に帰ったら……ね？

【遥】

お兄ちゃん、家に帰るまでが、デートだからね
ほら、もっとこっちに寄って

ふふ。東京にはたくさんカップルがいるけど、うちらが一番愛し合っていたりして……

……あ

あの家族連れ…赤ちゃん、いるね

ちっちゃなお姉ちゃんと…男の子、かな？ ベビーカーに乗ってて、あいらしか……
ん……こういうの、良いね

とっても幸せそう……

ふふ、お兄ちゃん、うちらも負けてられないね
家に帰ってから、もっと…愛を深めないと

そしたら、きっと……いつか、もっと特別な関係に……

ふふ、何でもないよ

さ、一緒に帰ろ、お兄ちゃんっ

…二人だけの家に、ね？

(END)